

「和」川柳社会報 六七〇

この解説板は、一九六五年の句碑完成時に作られてから三代目になります。製作は前田大峰さん。岡田一杜さんと共に句碑設立と鶴彬頭彰に関わって来られた和川柳社の重鎮です。

卯辰山玉兎ヶ丘にある「暁」の句碑と解説板



鶴彬句碑

鶴彬(る・あき)本名を喜多一二といひ、一九〇九年一月一日(明治四十二年)に現かほく市高松町に生れた。少年期より才に優れ地元新聞や各地の川柳誌に句を寄せているが、長して井上剣花坊主筆の川柳人社同人として、その平和希求の立場から句・評論で頭角を現した。一九三七年、昭和十二年及軍反戦的理由で「川柳人」誌を焚禁処分とした所謂「川柳人社彈圧事件」のあと同年十二月逮捕され、東京野方署に拘引、翌年の九月十四日未起赦のまま獄中死した。享年二十九歳

全沢鶴彬頭彰会

今年は鶴彬没後80年。企画の詳細は15頁に。

← 聞くのもうんざりの言葉。安倍の戦略である。そのゆるみがあらゆる省庁や自民党内、企業や組織に蔓延し社会は大混乱。だから我々は言い続ける。

定例会 二〇一八年七月二三日(月)  
定例会 於：金沢市金石町

◆ 目次

川柳互選 課題吟「流れ」…………… 2  
自由吟 …………… 2  
自由句／自解 …………… 4  
短信 …………… 6  
鶴彬の断片丹羽又平 …………… 7  
鶴彬忌川柳大会 …………… 11  
シベリア抑留者の手記 …………… 12  
鶴彬没後80年企画 …………… 15  
報告・後記 …………… 16

皆で選んだ七月の秀句  
付度が流行病になるゆるみ

遠田 亀公子

8月例会 8月27日(月)  
投稿締切 24日(金)  
課題「生・生きる」3句以内  
自由吟 5句以内  
自選句、自解筆もぜひよろしく。

# 7月の 川柳互選

## ◆ 課題吟 「流れ」

(互選) 一人2句吐

- 人生の六割流れに逆らい生きてきた 未知子
- 1 せめて六割流れに沿える世の中に 未知子
- 1 改憲の 流れを止めよ 民の声 広助
- 1 意に染まる流れに損は承知だが ダン吉
- 1 天災人災地方自治まで押し流し 大峰
- 1 堤防予算ちびり村も人も押し流し 大峰
- 2 鶴御霊潮の流れが出迎える 一角
- 2 この道は かつての流れだ ゆるせるか 宏
- 2 決壊を食い止められぬ政治危機 亀公子
- 2 共闘の流れが鶴を連れ帰り 一角
- 2 災害に川の流れの意志を見た 立東爺
- 3 民よいざ安倍の流れに逆らつて 和子
- 3 流れには添いつつ拳固くする ダン吉

- 3 日本会議流れを金で作りだし 白真弓
- 3 アメリカのカジノ大手がカネ流す 林
- 3 安倍三選流れに掉させ引き止める 白真弓
- 4 流される民を尻目に宴会す 林
- 4 流れ作業のように強行採決す 徹乗
- 4 川筋を無理矢理曲げて暴れ川 立東爺
- 5 流されて戦死に向かう昭和初期 徹乗
- 5 麻原の 罪は流せぬ 償いも 広助
- 5 民意こそ アベの流れに くさび打つ 宏
- 6 改憲で安倍と流れる亡国者 和子
- 8 忬度が流行病になるゆるみ 亀公子

## ◆ 自由吟 (互選) 一人5句以内

- 総理去れ老若男女息苦しい 和子
- 安倍居てはカジノで国民駄目になる 和子
- 安倍狂いカジノ手を付け恥さらす 和子
- のんびりの暮らしを許さぬ法幾多 立東爺

1	熱帯地獄 石炭掘りも辛かろう	未知子	1	水害にスパイ衛星役立たず	一角
1	ハードルを下げて闇から出ましようね	一角	2	原発ゼロ法案審議もされずお蔵入り	未知子
1	モンペ見て春夏どっち聞く女	一角	2	水の意志押さえつけければ暴れ川	立東爺
1	災害時 カジノ法案 賭けに出る	宏	2	あの口に役人做つて軽い口	立東爺
1	レッドカード 退場です 安倍総理	広助	2	人護るダムも凶器になるを知る	立東爺
1	熱帯地獄 トランプ政策大当たり	未知子	2	被災時に カジノ選挙法 強行す	宏
1	一票の 格差差別の 選挙法	広助	2	国境の線を消してくハトの群れ	白真弓
1	この酷暑息たえだえに堪えている	亀公子	2	学校で「禁賭博教育」始めます	林
1	豪雨来る安倍たち騒いで民無視よ	和子	2	不養生被災地視察骨折った	一角
1	今日も又糖衣錠に騙される	大峰	2	二〇年目指して拡散汚染物	白真弓
1	百歳になれば言いたいことを言う	ダン吉	2	街静か子どもがはしゃぐ声はなし	立東爺
1	働き手希望のある世に政治変え	和子	2	晋三の膿五臓六腑駆け巡り	大峰
1	お祭りの金魚淋しい秋となる	ダン吉	2	米と北アピールだけは素晴らしい	ダン吉
1	学ぶたびゴールが遠くなっている	ダン吉	2	列島にまさかまさかの七月よ	ダン吉
1	七夕に日中平和心知る	一角	3	災害が忘れぬ前にやって来た	未知子
1	ズタズタに喰いあらされる島の平和よ	亀公子	3	新基地の 強行・虚偽で 怒る島	宏
1	恥も外聞も無い残る自公選挙法	大峰	3	米国のために捧げるいのちと税	白真弓

3	地獄へと働く者を突き落とす	林
3	腹の虫押さえていたら口から出	未知子
3	過労死がありふれている国つくる	林
3	農薬漬け働き蜂の無惨な死	大峰
4	爆発してもヨウ素剤ない救急箱	徹乗
4	カジノでは日本国が賭けられる	林
4	忘れまい七夕の日の盧溝橋	徹乗
4	災害時 酒盛りの会 アベ自民	宏
4	被曝していること知らず鳥が舞う	徹乗
4	食いつなぐ年金からまで天引きし	亀公子
4	ダム水害パソコン任せのツケが来て	白真弓
4	大量の死刑前夜の御宴会	徹乗
4	長生きを してもよいですか 介護法	広助
4	君だよ君明日戦場に行きたまえ	白真弓
5	博打法 選挙改悪 この列島	宏
5	「あんな世」へまた戻るかと鶴彬	林
6	退廃した国会が産む賭博場	徹乗

## 自句自解

白山未知子

熱帯地獄 石炭掘りも辛かるう

投票結果はゼロでした。今年は世界的に気温が高く熱帯になっています。トランプさんは地球温暖化をフェイクニュース（偽情報）だと言って地球温暖化防止協定（パリ協定）から離脱、石炭産業を拡大しました。それを揶揄したつもりでしたが、まったく伝わりませんでした。川柳を始めて二年。なかなか思いを五七五に出来ません。

編集子より・地球温暖化、アメリカのパリ条約離脱と石炭復権などを今夏の高気温候を結びつけて句にしようとした試み、難しいですね。訴えを凝縮し情景を映像化し、心を打つ五七五にまとめ詠みたいですね。私も考えてみました。

この猛暑トランプから仕掛けられ

トランプが吠え炭鉱は熱地獄

トランプに負けるな太陽エネルギー

今月の  
自選連作



◆ 自選句 前田大峰

対岸の平和に晋三そつぽ向き

その番傘捨てるなど放射能雨が降る

山が割れても呑んでる赤坂自民亭

◆ 自選句 中野林

ウソ過ぎて病めるシンゾウ辞める時

トランプを諭しましたとポチのウソ

アベ色に染めた戦後史書き続け

戦前の物差し祖父から引き継いで

ひな壇に嘘つきどもが目白押し

死に方を選択させる高プロ口制

いまサルスベリが満開

過労死は悲劇でないとアベ総理  
過労死の言葉なくなる世の中へ  
無権利の闇の中にて働かず

◆ 自選句 岩原一角

喜多一二の御霊分骨

獄死者に口を閉ざした町変わり

鶴御霊市民の力で迎えよう

盂蘭盆に行先増える姪と甥

暁を抱いた男里帰る

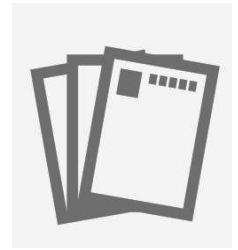
◆ 自選句 松和子

総理あかくカジノで暮らしガタガタよ

災害のまったただ中で祝杯す

国会はバクチで日本捨てる気か

トランプにおだてられたるカジノ総理



◆ 短信 (岩原茂明)

「和川柳社句報 669」に「鶴彬句集(岡田一と)より」と題する編集子さんの文を見つけた。ふつと思いついたのは岡田一杜さんのご遺族。

風の頼りにお元気に自営をされておられると聞いていたので、訪ねてみた。

いつもの若い奥さんが出られて「あら、お久しぶり、ぜひ見せて」とのことだった。一杜さんが旅立たれてもう数年、ご遺族にももつと一杜さんが川柳界の革新のために果たされた役割を伝えなくちゃと思った。

◆ 短信 (白真弓)

毎日暑くて、ばて気味ですが、金沢は特に暑いのでは？

水害には心を痛めます。そのほとんどはダムのある川、治山事業で砂防ダムなどを作ったところだと思えます。その後の手入れを怠っていたり。検証が必要です。

少なくとも、ダムの設置前と後は、溢れる水の量も被害も格段の差があり、洪水と水害の差だと聞きます。今回もそれが顕著に出たそうです。

ポーっとして句が浮かびません。八月を控え、やはり戦争に気持ちいが傾きます。



## 鶴彬の断片

丹羽 又平 (故人・元高松町々長)

今年には鶴彬没後八〇年。生存中の鶴彬を知る人がいなくなり、散らばる記録の中から「人間・鶴彬」を正しく伝えることが私たちの仕事になっている。その一つが昨年暮れに発見された資料である。「鶴彬を顕彰する会」の会報「はばたき31号」で紹介された、鶴彬の幼なじみ、丹羽又平さんの文章である。発見までの顛末を小生の知人が書いています。後掲。(編集子)

昭和五年の早春、七尾線高松駅頭は入隊する新兵の見送りでごった返していた。

祝入営の墨痕鮮かに書かれた幟が林立している中に、一本だけ細長い赤い布地の幟が際立って見える。同志が鶴に送ったものだ。

ところが、赤い旗は危険信号と見誤るからという駅長の言葉で素直に降ろしてしまった。

が、歓呼の声に送られて汽車が走り出したら、窓から流した赤い旗が靡いていった。駅員らは苦笑して見送っていた。私はあの光景が今も目に焼き付いている。

翌朝、義父が晴れの入営のために折角用意した羽織袴を拒み、平常の紺紵の着流しで、彼の癖で左肩を僅かに上げて営門をくぐっていった。

この機会にぜひ付言しておきたいことがある。鶴について「極貧の家に生まれ…」という人がいるが、決してそうではない。早く父に死別し、伯父に引き取られて育ったが、その伯父は輸出羽二

重工場を営んでおり、当時は義務教育だけで終えるのが普通で、更に高等科まで出たというのは田舎では珍しいことだ。

私の一年以上級で、私は羽咋中学へ進んだが、彼は高等科卒業までずっと一番で通した。秀才であったが友情にあつく、誰彼の別なく親しく交わった。私たちは彼から川柳というものを知った。

さて、入営後、軍が最も恐れていた赤化という名の七連隊初の不祥事件で裁かれる日が来た。

調べで高等小学卒と答えて、ウソつけと叱られる一幕があった。長い第二インターのテーゼを淀みなく口述した頭の良さに大学卒と思われたらしい。思想を略述せよとの尋問に対する答弁は、彼の主張を堂々と発表できる場となり、彼の真骨頂を發揮することとなる。

自分の主張は、陛下の大御心、換言すれば文化

を下万民に均しく潤うようにすることにあり。しかるに軍、政、財閥らが暗雲の如く遮っている。

これらを払拭するべきである。と、軍隊内では絶対にできぬ自分の信念を思う存分に述べることでできた満足感で、微笑さえ浮かべていたという。

大御心を盾とした論には、うっかり反論すれば逆に不忠不義となりかねない。裁判官らは頭を悩ましたに違いない。意外にも二年八カ月の刑だった。しかも模範囚と遇され、二年余で仮釈放だった。

軍内でも、学課も優秀で内務も真面目だから、要注意人物ながら苛められなかった。

幾度か尋問しているうちに彼の人物柄に惹かれた某將軍が、彼の除隊後、自宅へ招くなど交際を続けたことや、憲兵も、鶴の動静を調べに時々やってくるうちにいつの間にか友人のように打ち融けて話しかける光景がしばしば見られたことは、彼



の温和な性格に人を魅するものがあつたためにほかならない。

その後、プロレタリア川柳人として活躍することになるが、昭和十二年、『川柳人』誌に発表した川柳で治安維持法で検挙され、翌年、留置場で赤痢にかかり獄中死。二十九歳。

闘士といえば家族や友人を捨てて突つ走る人間と想像されやすいが、鶴の場合、常に心の温かい人間で、人を愛し、人からも愛され、彼の言行や作品の底に流れるものはヒューマニズムだった、と友人の一人として私は断言したい。ともあれ、理不尽な軍国主義に反抗したゆえに一人の英才を失つたことは惜しまれてならない。

【註】にわ・またへいさん 1910年、石川県河北郡高松町に生まれる。県立羽咋中、日本大学歯学科卒。1938年東京板橋区練馬南5丁目で齒

科医院開業、1945年戦災を受け帰郷、現地で開業。

1949年高松町長。公民館館長、民生委員、保護司、調停委員、町史編さん委員長、文化財保護委員長。剣道5段、居合道5段。日本詩吟学院師範、渋川流剣舞5段。県体育協会表彰、県文化奨励賞、1977年勲五等瑞宝章。|| 金沢で発行の短歌雑誌「雷鳥」1995.12より転載 ||

※丹羽又平さんは平成19年97歳で死去されました。

## 思いがけない鶴彬との出会い

遠道 朝子

我が家の居間に、知人が揮毫した「暁を抱いて闇にゐる蕾」の書が掛け軸になっています。三十年以上も前になりますが、この書を通して鶴彬を知った私です。

亡き母は短歌をたしなみ、「雷鳥」という短歌誌

に毎月投稿し、その冊子の編集も手伝っていました。この度、母が遺した歌をまとめようと百五十冊もある「雷鳥」を整理していたとき、鶴彬を詠んだ高松町の金津淑子さんの「反戦詩人」と題する歌が目につきました。

甥とふを秘めたりと

亡き姑言ひし反戦詩人を今は誇れる

反戦の心つらぬきし鶴彬

今宵しのびてその句集詠む

この歌が載った翌々月号「雷鳥」平成七年十二月の巻頭に、「鶴彬の断片」と題する元高松町の町

長さんもされた丹羽又平さんの文章が載っていました。

この丹羽又平さんの文章を読むと鶴彬さんが生き生きと描かれていました。居間にあり毎日見ている鶴彬がとても身近になり、仕事やボランテイアで交流のある渡辺寛さん（川柳をなさっている）にこのことを電話すると、その日に訪ねて来られ「晩年の丹羽又平さんですね。とても洗練された鶴彬の紹介で大発見かもしれませぬ」とのことでした。

改めて丹羽又平さんの文章を読み返しました。

「私の一年以上級で、私は羽咋中学へ進んだが、彼は高等科卒業までずっと一番で通した。秀才であつ

たが友情にあつく、誰彼の別なく親しく交わった。私たちは彼から川柳というものを知った。」など、かれの少年時代の断片が綴られ、私も身近





金沢で発行されていた  
短歌雑誌「雷鳥」

に感じ、また獄死という悲惨な最期を知るにつけ、戦後まで生き残っていたらさぞや大詩人として名をなしたのであろうと残念に思うのです。まだまだ鶴彬が巷の人々に知られていません。鶴彬を顕彰する会の皆様のご活躍に期待すると同時に、戦争、原爆がこの世から永久に無くなることを願っています。(二〇一七・十二・八 日米開戦記念日に)

なお、文中、「高松町の金津淑子さん」は、現在、

ご参加を！

第32回 鶴彬忌川柳大会

主催…かほく市川柳協会

後援…石川県川柳協会・かほく市教育委員会・かほく市文化協会・北陸中日新聞・鶴彬を顕彰する会

日時…平成三十年九月二日(日)

投句×切 八月三十一日(金)必着

場所…高松産業文化センター・大ホール

開場…午前九時三十分(受付開始)

出句×切…午前十一時(時間厳守)

・席題「共通当日発表」 金沢川柳句座 浜木文代選

・席題「共通当日発表」 宝達川柳会 赤地 加久選

・宿題「積」 寺井川柳会 小西涼成選

・宿題「るるるん」 こまつ川柳社 東野やす子選

・宿題「跡」 蟹の目川柳社 岡本聡選

・宿題「気」 福野川柳社 六反日出緒選

※出句数 宿題二句提出 献句一句ご持参ください。

表彰 各題ごと秀句賞一句(かほく市川柳協会賞 北陸中日新聞賞)

最優秀句賞一句(石川県川柳協会賞)

・会費 三千元(昼食・発表誌呈・懇親会費含む)

・投句料 五百円××切八月三十一日(金)必着

・投句先 下かほく市高松川柳協会(小山広助方)

問い合わせ: TEL/FAX・076-281-1201・090-4323-1754

ご高齢ですが、お元気です。近いうちに、金津さんが「雷鳥」に綴った歌を「金津淑子歌集」としてまとめ、届けたいと考えています。(立東爺)

## シベリア抑留の記録を預かった

(周立東爺)

### 「在ソ三年生と死のドラマ」

今、手元に、百二十枚ほどの原稿用紙に書かれた原稿がある。知人のSさんから「父の残したもので、いつか本にしたいと思っていただけのだが…」という。

タイトルには「在ソ三年 生と死のドラマ」とある。著者は秋山茂。静岡県生まれ、Sさんの父で昭和六三年死去された。享年七四歳。満州国陸軍鉄道警護兵で敗戦でソ連軍に逮捕されシベリア抑留三年の生活を詳述してある。できればこの会報で連載したいと思っている。その導入として、Sさんが父を語って

いる文章があるので、まずは紹介したいと思います。Sさんから四人の子と家族の生活を守る父親の姿を描いています。Sさんは新聞の投稿欄にも戦争と平和についてよく寄稿されています。戦争を体験した方の文章は具体的な表現が少ないのですが、それは文字にできない事実を見聞きしてきたことの裏返しでもあります。小生の父も第七連隊から南京攻略戦に参加、負傷しているのですが、戦争の話は殆んどしませんでした。「戦争だけはするもんじゃない」というも言っていたことを思い出します。

## みんなが来てくれた

(1)

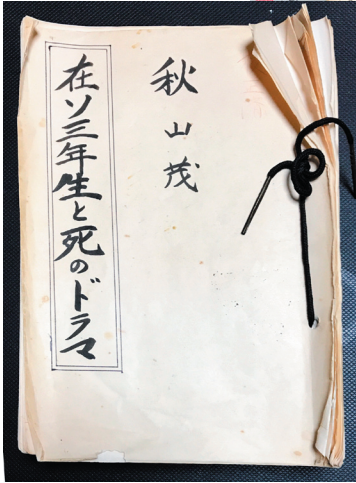
坂本富沙子 金沢市 (70歳) 執筆当時

平成十九年八月。遅かった梅雨明け宣言を四日に聞き、やっと蝉の声が聞かれる。

開け放たれた窓から果てしなく続く青空が目に見える。び込んでくる。

家事を終えほつと一息ついて座る机の前で、この青空の様に大きな温かい心と正義感にあふれていた父のことを思い出すことが多い。

大正二年八月十三日生まれの父は、八人兄妹の次男坊。真面目、実直な長兄とは異なり幼い頃から腕



白であつた様だ。

家は静岡の片田舎で、酒、雑貨類を商い、母親はその頃天竜川を上下する舟の船頭達のために座敷を開放し、ゆつくり一杯飲む宿場を営む女傑型であつた。父はその母を尊敬し、愛し、一番怖い人でもあつたらしい。

静岡県立中泉農学校を昭和六年三月に卒業したものの、当時の国内は不況でその上日支両国間には非常に険悪な空気がみなぎり、義勇奉公の文言が中心で津々浦々に広がつていた。

うつつとして家業を手伝つていた父ではあつたが、同級生や先輩達が次々と現役志願兵として独立守備隊に入営していくのに接して、このまま草深い田舎にべんべんとしてはおれぬと家業を放り出し徴兵検査を受けた。

見事甲種合格し希望通り満州独立守備隊へ昭和七年十一月二十四日入隊。以来日本が敗戦国となつた昭和二十年八月十五日まで、軍人一筋の父であつた。

昭和十一年二月二十一日、母の叔父が経営していた寧安旅館の広間で当時そこを手伝っていた母と恋愛し結婚式を挙げています。

私をはじめに四人の子持ちになったが、満州では討伐々々でほとんど家にはおらず、たまに帰宅すると、黙々と勉強している人であった。

子どもが嫌いなのかというところでもなく自分が疲れた時、当時八歳と六歳の私と妹を住宅のすぐ横にある遊園地へ夜の八時頃連れ出し、バケツに水を何杯も広場にまいてミニリンクを作り、嬉々としてスケートを教えてくれたりした。

小学校入学より三年間いつも軍服姿の父を見ていて単純に軍人一筋で生きて来た人と見ていたが、父の書き遺したものを読むと決してそうではなかったのだ。

入営前何よりも懂れて入った日本軍隊であったが、入って見ればその内部は縦の関係だけで物事を左右し、上官の感情一つで人事を動かし、初年兵など動

物以下の扱い、まるで奴隷の如き日々に「これが精鋭を誇る日本陸軍の実態か」と落胆失望して二年間の義務年限を終った昭和九年十二月さっさと除隊。

そのまま満州に残り昭和十年四月奉天郊外の鉄路警護講習所へ入り、普通科第十三期生として警務実務や法律を学び、教習を終えるや否や正式に警務隊員として牡丹江警務団寧安分所へ着任。以後終戦まで満州国鉄路参護団陸軍鉄路警護兵少尉から中尉となり八路軍を追って転戦していたのだった。

昭和二十年十一月十三日にシベリヤ抑留となり、昭和二十三年十一月日本へ生還出来たのだが、この三年間で何度も死の恐怖を体験した父は「余生怖いものなし」の生き方だった。

自分の故郷静岡で妻子は待つているものと一目散に戻った父だったがそこに妻子の姿はなかった。

様子の分からぬ田舎へ帰るのは嫌だと妻は四人の子を連れ自分の故郷金沢へ戻っていた。(つづく)

今年は

# 鶴彬

没後80年。  
顕彰企画が  
いっぱい！

◆8月19日(日)

かほく市川柳祭  
高松産業文化センター

◆9月2日(日)

鶴彬川柳大賞発表  
鶴彬忌川柳大会

◆9月14日(金)

鶴彬分骨墓碑  
建立記念式

◆9月21日(金)  
~24日(月・祝)

演劇「T・AKIRA」

豊多摩病院のベッドで死  
の淵にいる鶴彬が見た夢  
の話《新感覚の鶴彬》

- 9月21日(金)
- 22日(土)
- 23日(日)
- 24日(月・祝)

- 劇団 Coffee ジョキャニ一ニヤ
- 金沢市民芸術村

**2018 8/19日** 高松産業文化センター

**かほく市川柳祭**

オープニング太鼓  
ADOPT 午後1:30-1:50 迫力満点

バイオリン&チェロ演奏とトーク  
伊田多喜・直樹 午後2:00-3:00

朗読劇  
脚本 鶴彬の生涯 午後3:10-3:41

第6回 鶴彬 かほく市川柳祭  
入道作品 発表・表彰・録音 午後3:50-4:20

9/2日 高松産業文化センター 午後1:30

第29回 鶴彬川柳大賞発表  
第32回 鶴彬忌川柳大会

9/14 高松市立中央公民館 午後1:00-1:30  
高松歴史公園 午後2:00-2:30

第19回 鶴彬をたたえる集い 碑揭幕  
朗読会「ドイツの鶴彬」 午後2:48-3:40

9/21(金)~24(月・祝) 金沢市民芸術村  
鶴彬没後80年記念事業  
演劇「T・AKIRA」  
劇団Coffeeジョキャニ一ニヤ  
チケット券額 1,000円  
7席から6席まで  
定員 20名  
主催 豊多摩病院 公演実行委員会  
高松・金沢両地蔵堂人しごと局 和川柳文化伝承会

**第七回 高松産出街道フェスティバル**

鶴彬のふる里

今、高松の街並から未来へ

市民川柳あんどん祭り

高松市川柳祭  
開催中  
高松市川柳祭  
開催中

チラシご希望の方は  
編集室まで連絡を！

真実をのぞく

**TAKIRA**

2018.9.21-24  
高松市立中央公民館  
高松歴史公園

高松 浄専寺 聞法の集い  
かほく市高松ツ66 ☎076-281-0546

- 8月5日(日)午後7時30分～  
\* ブッダ・カフェ・担当喜之
- 8月11日(土)～12日(日)午後1時30分～  
\* お盆法会(11日・喜之/12日・細川公英氏)
- 8月15日(水)午後1時30分  
\* 全戦没者追弔法会・喜之  
\* 731部隊の真実(NHKスペシャル)  
\* エリート医学者と人体実験
- 8月11日(土)～15日(水) 午後1時～6時  
「戦争パネル」展と「戦没青年の遺した言葉」展
- 8月26日(日) 午後7時30分～  
\* 大地の会・担当 道雄
- 9月5日(水)午後1時30分～  
\* 生きることを学ぶ会  
\* 石井 光 氏(青山学院大学名誉教授)  
「自分心のみつめて生きる」
- 9月15日(水)午後1時30分～  
\* シンガー・ソングライター  
YAMATO(山登)コンサート

## ◆ 報告あれこれ

◆ 今年は鶴彬が獄中死を余儀なくされてから八〇年になります。盛岡や大阪、東京などでも多彩な記念行事が計画されています。生地高松では鶴彬を顕彰する企画と記念川柳大会が連続して企画されています。

◆ 鶴彬が眠る盛岡から分骨して新しく生地・高松で鶴彬の墓をつくることが決まりました。長年の念願でもあった里帰りが実現する

ことになります。命日の九月一四日、建立予定地の浄専寺で「鶴彬分骨墓碑建立記念式」が行われます。

◆ 9月21日からの演劇は金沢で開演される新しい感覚で鶴彬を描く試みです。

◆ 「高松歴史海道フェス」(8/19)でチェロを演奏される伊田さんご夫婦は長年ルーマニアで演奏活動をされてこられました。小1から2ヶ月まで三男二女の子だくさん。もしかして子どもたちも演奏に加わるかも。

## 和川柳社 8月例会の案内 (毎月第4月曜)

◆ 8月27日(月)

◆ 〆切: 8月24日(金)

◆ 課題 「生きる」**3句以内** ◆ 自由吟 **5句以内吐**

◆ 自選吟、連作、エッセイ、川柳論、「意見などお寄せ下さい。」 ◆ 会場: 金沢市金石(乞ご連絡)

◆ 句報を持参下さい。例会で話し合います。

● 投稿 FAX(076) 254-0762

● メールアドレスは下段に。

郵送は

下段住所へ。

## ◆ 編集後記

鶴彬を直接知る高松の元町長さん丹羽又平さんが残した資料が昨年末発見され、「はばたき」に紹介されました。貴重なもので、発見に小生も関わっていたこともあり、紹介しました。(編集子)

和川柳社 // // // // // 金沢市金石東2丁目15-30 (渡辺方)

電話 FAX: 076-254-0762 PC-mail: kananabe@popolo.org

携帯: 090-9445-1302 携帯 mail: kan-wata@i.softbank.jp

振込先: 北國銀行中央市場支店 #191 普通 640- 和川柳社